



# ATA 191 の国固有のトーンおよびパターン

• [ATA 191 の国固有のトーンおよびパターン \(1 ページ\)](#)

## ATA 191 の国固有のトーンおよびパターン

### メカニズム

管理者は、トーンとパターンを記述した g3 tones.xml という名前の XML ファイルを、Cisco Unified Communications Manager TFTP サーバ上のディレクトリにアップロードできます。実際のディレクトリ名は、**Australia** などのロケール名です。

プロビジョニング中に、デバイスはネットワーク ロケール設定を認識し、Cisco Unified CM TFTP サーバから [locale name]/g3-tones.xml をダウンロードしようと試みます。たとえば、ネットワーク ロケールが **Australia** に設定されている場合、パスは、**Australia/g3-tones.xml** になります。

### トーン ファイルとデバイスのリンク

#### 手順

次の方法のいずれかを使用してデバイスにトーン ファイルをリンクします。

- 方法 1 : Cisco Unified Communications Manager で、[システム (System)] > [デバイスプール (Device Pool)] に移動し、[ネットワークロケール (Network Locale)] 値を設定してロケール オプションを指定します。
- 方法 2 : Cisco Unified Communications Manager で、[デバイス (Device)] > [電話機 (Phone)] に移動します。[デバイス (Device)] ウィンドウで、[ネットワークロケール (Network Locale)] の値を設定します。これにより、方法 1 で設定した値が上書きされます。

- (注) 方法 2 の場合は、[デバイス (Device)] > [電話機 (Phone)] のネットワークロケールが現在は [なし (none)] と [米国 (United States)] しか選べず設定できません。メニューから米国以外の国を選択できない問題は、Cisco Unified Communications Manager における既知の問題です。方法 2 は方法 1 よりも優先されます。

## トーンの設定

- ATA 191 ライン 1 のネットワーク ロケール設定のみが適用されます。ライン 2 のネットワーク ロケールは、ライン 2 のネットワーク ロケールの設定値がライン 1 の値と異なる場合でも、常にライン 1 のオプションを適用します。
- 以下のトーンのみを設定できます。
  - リングバック トーン
  - リオーダー音
  - ダイヤル トーン
  - 外部ダイヤル トーン
  - 話中音
  - コール待機音

トーンが指定されている場合はトーンプロファイルに表示されますが、サポートされていないか、(サポートされていても) 無効なデータ フィールドを持つトーンは無視されます。

- 例: トーンプロファイルに有効なリオーダー音の指定、無効な話中音 (無効なデータ フィールドを持つ)、および録音トーンの指定 (サポートされていない) が含まれている場合。リオーダー音の指定のみが適用されます。
- トーンとパターンを記述した XML ファイルの名前は **g3-tones.xml** です。
- 各トーンは、最大で 4 つの c/i ペア (周波数とゲインに関するもの) および 4 つのパターンセグメント (それぞれがオン/オフのペア) を指定できます。追加データがある場合は破棄されます。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。